第五次本庄地区地域福祉活動計画

＜平成 31 年度～令和５年度＞

福祉目標

手をたずさえ 心むすぶ

本庄

人づくり・健康づくり・支えあい

写真提供：原田 知幸　氏

平成３１年４月

本庄地区社会福祉協議会

「第五次本庄地区地域福祉活動計画」策定にあたり

1．第四次本庄地区地域福祉活動計画（第四次５か年計画）の成果と反省

最終年となった「第四次５か年計画」の成果と反省について振り返ります。

この計画は、総花的な計画になり、メリハリの少ない活動になってしまいましたがその中でも２地区で“みまもり隊”が発足、“なごやか会”も活発に開催されるようになりました。また、実現は出来ませんでしたが合同敬老会の取り組みについても十分に成果はありました。

合同敬老会開催の打合せでは積極的な意見が沢山出され順調に準備が始まりました。ニーズ把握のアンケートも行いました。その結果は“参加したい“と答えた方が 26%（104 名）、”まだわからない”が 28%（111 名）という回答を得、最終的には 40%（160 名）程度の方が参加してくれるだろうと予測し準備を始めました。開催するには①予算の問題②会場の問題③会場までの送迎の問題について解決する必要がありました。①については、単年度予算で実施することは困難ですが二ヵ年計画で実施することにより解決します②については、「だんだん市長室」での意見提起で小学校使用についての目途が立ちました③については、各地区の民生委員さんや福祉推進員さんにお世話になり改めて参加希望人数を把握してから対策をしようと考えていたのですが参加希望者は実はアンケートでは 26%もの方が参加したいと答えられていたのですが、面談した結果では参加したい人はアンケートの半分にも満たない状況でした。この状況で開催すれば、参加者は少ないのに各地区への敬老会助成は出来なくなりなるので効果対費用を考えた時止む無く中止せざるを得なくなりました。結果としては実施できませんでしたが社協にとってはこの取り組みはとても有意義な活動でした。

2．第五次本庄地区地域福祉活動計画（第五次５か年計画）の策定の基本理念

私たちは作成にあたり“夢物語”を話し合いました。あんな本庄になったらいいね、こんな本庄になりたいねと。

“住み慣れた我が地域でいつまでも幸せに暮らし続ける”ことが出来る“まち”であり、孤独・孤立にならないような地域でありたい。また、本庄地区は「少子高齢化、核家族化」が進んできており高齢者対策、子供対策もどちらもとても重要な課題です（＜参考＞人口分布比較 参照）。地域福祉（福祉のまちづくり）は、行政や他人から“してもらう”のではなくて、自分たちの地域をどのような地域にしたいのか自分たちで考え、話し合うことが今後は特に求められ

てきます（自発的活動の重要性）。これらの問題は今後の本庄の有り様にも影響する課題だと私たちは認識しています。また、災害時には隣近所同士の助け合いはもとより、組織として行動が出来なければなりません。そのためには、見守り活動と防災隊との連携は必須になります。以上のことを第五次５か年計画策定の基本理念としました。

３．第五次本庄地区地域福祉活動計画（第五次５か年計画）のテーマ

第五次 5 か年計画の策定にあたり沢山の問題点が提起されそれらを「なりたい地域の姿」に整理分類すると次の５項目の目標にまとめることができました。

①隣近所で助け合い力を強めて困っていることを誰かに伝えられる社会になりたい②子供が安心して過ごせる場が欲しい③買い物などの一寸した手助けが受けられる社会になりたい、④民生委員・福祉推進員の役割をもっと知ってほしい⑤リーダー、世話人が地域に多く育ってほしい。

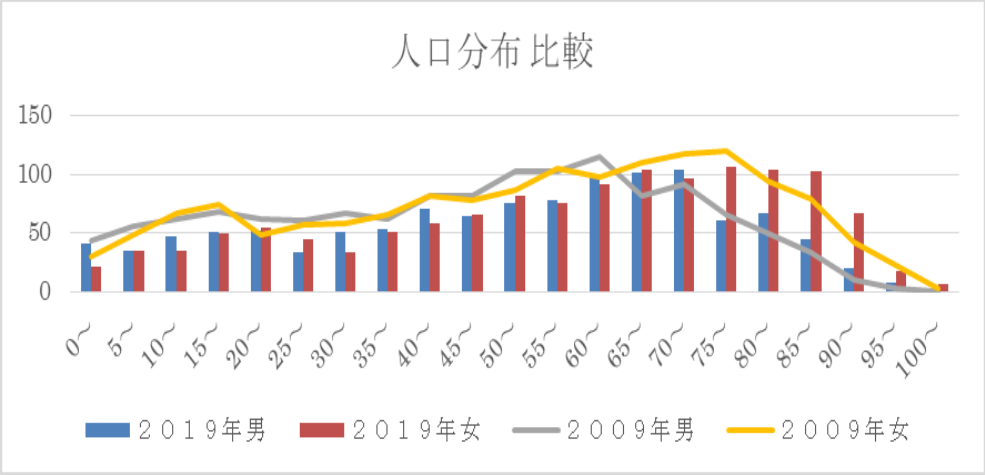
第五次 5 か年計画は「なりたい地域の姿」の実現を目指し“見守りの充実”に取り組んでいきます。取り組みにあたっては全地区同時に同じ内容のことを行うのではなくて、各地区の状況は様々ですし地区内でも違いがあります。その小さな集まりの目標の達成に向け“自発的活動”ができるように連携し活動を行っていきたいと考えています。

以上のことを踏まえ「自然に見守りができるまち」をテーマとして活動計画を立案し、本庄地区第２層協議体の活動として取り組むこととします。

＜参考＞

２０１９年　2,454 人（男　1,155 人　女　1,299 人）

２００９年　2,779 人（男　1,294 人　女　1,485 人）



出典：松江市統計情報データベース

第５次本庄地区地域福祉活動計画（2019～2023）
テーマ「自然に見守りができるまち」

No.1
孤立・孤独

活動目標

1．見守りの充実（小さな拠点づくり）　　2．リーダーの育成

1．見守りの充実（小さな拠点づくり） ☆目　標　　・問 題 点	何　　故　？	どうすれば良い
☆隣近所で助け合い力を強める・困っていることを伝えられる社会		
・個人情報がわからない。特に、介護家庭、一人親家庭	個人情報保護により情報収集と共有ができない	
・集会等へ参加しない人・出来ない人がいる	町内会で自分にメリットになる情報がない	助け合いの必要性を啓発する
・町内会未加入世帯がある	元気な時には問題がない、共助の意識が低い	
	今までに地域との交流が少ない	役割を明確にし参加者を増やす
	地域活動への興味関心の低下	その人の状況もわかる
・いつでも誰かに会うことができ、気軽に集える場所がない	場所ではなく集う機会がない　（高齢男性）	班単位くらいの小規模の集いの機会をつくる
特に男性の集える場がない	集える場所がない	
・災害に備えた世帯の状況把握ができていない	近所でも家族構成が分からないところがある	自主防災隊組織の活用・活動充実させる
どこまで把握するかが問題・・・災害時に役立つことが必要	コミニュニケーションが不足している	見守り隊の設立を推進する
ある程度できている地区もある	お世話をする人がいない	
・障がい者施設と地域との関わりが薄い		障がい者施設との連携をする
☆子どもが安心して過ごせる場をつくる		
・地域に子どもが安心して生き生きと過ごせる居場所がない	手頃な場所がない　　物理的に場所がない	公民館に子供が集まる仕掛けづくりを行う
	子供の遊びが変わってきている	
	子供が少ない	
・地域で子どもを育てる機能が低い	お世話をする人がいない	青パト活動の充実
	親は忙しい	挨拶運動の増進
	子どもに関係する団体の連携が弱い	児童クラブ・子ども広場・スポ少等との連携を強める
		子ども（小中学生）が地域に参加する活動を企画する
☆買い物などの生活支援ができる		
・今は困っていないが数年後には困る	独居世帯の増加	民間業者の活用・紹介
・coop等の注文の仕方が分からない	注文の仕方が複雑で分からない	
・誰が困っているか分からない	個人情報保護により情報収集と共有ができない	
☆民生委員・福祉推進員活動の認知度を高める		
・民生児童委員が何をしてくれるのか知らない住民ががいる	ＰＲ不足	
・福祉推進員の活動目的・内容を理解していない人がいる	福祉推進員の負担が増えると成り手がなくなる	

第５次本庄地区地域福祉活動計画（2019～2023）
テーマ「自然に見守りができるまち」

No.1
孤立・孤独

活動目標

1．見守りの充実（小さな拠点づくり）　　2．リーダーの育成

２．リーダーの育成（老若男女一緒になって活動） ☆目　標　　・問 題 点	何　　故　？	どうすれば良い
☆リーダー、世話人を増やす		
・地域活動へ参加しない、参加したがらない人がいる	継続した楽しい企画が少ない 若者世代が何を求めているのかがわからない 現職世代は時間的に活動が困難 地域活動に参加できる世代が高齢化している	若者も夏祭りなどで頑張っている 若者も頑張るけど元気な高齢者も一緒になって活動 若者の意見を聞く場をつくる（壮青会、ＰＴＡ etc） 子ども（小中学生）が地域に参加する活動を企画する 町内会ごとに小中学生と高齢者が集まる機会を作る